

「ザカリアの預言」

2015年04月11日

ルカによる福音書 1章67節～80節。父ザカリアは聖霊に満たされ、こう預言した。

「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、我らのために救いの角を、／僕ダビデの家から起こされた。昔から聖なる預言者たちの口を通して／語られたとおりに。それは、我らの敵、／すべて我らを憎む者の手からの救い。主は我らの先祖を憐れみ、／その聖なる契約を覚えていてくださる。これは我らの父アブラハムに立てられた誓い。こうして我らは、敵の手から救われ、／恐れなく主に仕える、生涯、主の御前に清く正しく。幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を整え、主の民に罪の赦しによる救いを／知らせるからである。これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、／高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、／我らの歩みを平和の道に導く。」

幼子は身も心も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に現れるまで荒れ野にいた。

エルサレム神殿の祭司ザカリアと妻エリサベトの老夫婦の間に天使の予告通り、ヨハネが誕生した。言葉を失っていたザカリアは書き板に「この子の名はヨハネ」と書いた時、口が開き、舌がほどけた。ザカリアは聖霊に満たされ神を賛美する。その賛美が上記の「ザカリアの預言」である。彼は「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を」と歌い出す。回復した言葉は神賛美から始まる。ザカリアは旧約聖書で預言されたことが成就し、我が子ヨハネはそのために用いられると預言している。神はイスラエルを解放し、救いをダビデの家から起こされた。神はイスラエルの父アブラハムとの誓い、また預言者たちの口を通して語られた通りに、我らを、敵、憎む者の手から救い出される。先祖を憐れみ、聖なる契約を成就してくくださる。敵の手から解放された新しい時代を迎え、我らは恐れなく主に仕え、主の前を清く正しく生きることができる。新約聖書は主イエスの福音を、旧約聖書の預言の成就、神の救済史に位置づけられている「今」として捉え、受け止めている。それは、喜びに満ちた壮大な歴史観である。

ザカリアは、神の救済史を感謝し、我が子ヨハネの使命について預言する。まず「幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる」と呼びかける。旧約聖書の預言者たちはキリストの到来を待ち望み、預言し続けた。ヨハネは、その最後の預言者として、人々にキリストを指差す。彼は、主イエスに先立って行き、歩まれる道を整え、救いをもたらす主イエスの先導役を果たす。それは、主の民に罪の赦しによる救いを知らせることである。この罪の赦しの救いは神の憐れみの心によるものであり、高い所からあけぼのの光が差し込み、暗闇と死の陰に座している者たちを照らしてくくださる。罪の赦しによる救い、福音は、罪と死をもたらす虚無と恐怖から、生きることを「然り」と是認する光である。光は暗闇の中で輝き、暗闇を無力にする。命の光であるからである。神は、命の光をいただいた者たちの歩みを、共に生きる平和の道へと導いてくださる。

ザカリアは聖なる契約を成就する主イエスのために、我が子ヨハネが用いられることを、どれほど喜んだであろうか。夫妻は年老いて与えられたヨハネをエルサレム神殿の祭司にすべく、熱心に宗教教育を施したに違いない。しかし、ヨハネはエルサレム神殿を捨て、イスラエルの宗教の原点である荒れ野に立って、真っ直ぐに神を説いて、激しく悔い改めを迫る宗教者になる。神が託した使命通り、主イエスの先導者、キリストの証言者となる。